

米子工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	校外実習
科目基礎情報						
科目番号	0083		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合工学科（化学・バイオコース）		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材						
担当教員	青木 薫,藤井 雄三,田中 晋,小川 和郎,谷藤 尚貴,櫻間 由幸,伊達 勇介,村田 和加恵,藤井 貴敏,磯山 美華,土田 裕介					
到達目標						
企業等での実習を通して、技術者としての社会人を経験・認識し、今後の学習や将来の進路決定に役立てる。 (1)企業等での実習を通して、技術者としての社会人を体験し、認識する。 (2)企業等での実習経験を今後の学習や将来の進路決定に役立てる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	企業等での実習を通して、技術者としての社会人がどのようなものであるか認識できる。		企業等での実習を通して、技術者としての社会人がどのようなものであるかある程度認識できる。		企業等での実習を通して、技術者としての社会人がどのようなものであるか認識できない。	
評価項目2	企業等での実習経験を今後の学習や将来の進路決定にどのように役立てるか説明できる。		企業等での実習経験を今後の学習や将来の進路決定にどのように役立てるかある程度説明できる。		企業等での実習経験を今後の学習や将来の進路決定にどのように役立てるか説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 C						
教育方法等						
概要	学校と異なった環境である企業等での実務を体験し、これまでに修得した知識や技術を再認識するとともに、今後の学習に役立てる。さらに、技術者・社会人としての自覚を養う。					
授業の進め方・方法	学校での授業や実験実習は誰もが同じことを学習するが、校外実習は受け入れ企業毎に内容が異なるので、自分一人で勉強することになる。したがって、企業等の実習に参加する前に基礎教科を復習しておくことが大切である。					
注意点	校外実習はアルバイトではない。就業体験を通しての勉強である。服装、髪型、態度等については、学生らしい好感を持たれるように、充分自覚して行動すること。企業等への往路・復路の移動も慎重に事故の無いように心がける。 評価は、実習報告書および実習報告会の内容を基に、総合的に可否を判断する。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	<実習受入企業等一覧の掲示> 物質工学科イントラネットにて閲覧可能とする。 （ここにあるもの以外を独自に探しても良い） 実習を希望する企業を担当教員に伝え、他の学生と希望を調整の後、校外実習申請書を提出する。 <企業等での実習> 夏季休業期間中に 5 日以上実施する。 企業からは、担当教員宛に実習証明書を提出してもらう。 実習後は、速やかに実習報告書を担当教員に提出する。 <実習報告会> 10月の特別行事にて実習報告会を行い、担当教員による評価を受ける。	企業等での実習を通して、技術者としての社会人を経験・認識し、今後の学習や将来の進路決定に役立てる。		
		2週	同上	同上		
		3週	同上	同上		
		4週	同上	同上		
		5週	同上	同上		
		6週	同上	同上		
		7週	同上	同上		
		8週	同上	同上		
	2ndQ	9週	同上	同上		
		10週	同上	同上		
		11週	同上	同上		
		12週	同上	同上		
		13週	同上	同上		
		14週	同上	同上		
		15週	同上	同上		
		16週	同上	同上		
後期	3rdQ	1週	同上	同上		
		2週	同上	同上		
		3週	同上	同上		
		4週	同上	同上		
		5週	同上	同上		

		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	同上	同上
	4thQ	9週	同上	同上
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	同上	同上
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3	
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	3	
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	
				全ての人が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	
		情報リテラシー	情報リテラシー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3	
				情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。	3	
				個人情報とプライバシー保護の考え方についての基本的な配慮ができる。	3	
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威を認識している	3	
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0